



面壁九年

2007年度
(社)鳥取青年会議所
広報誌 9月号

面壁

INNOVA [ina:va]
変革

鳥取青年会議所 検索
URL <http://torijc.main.jp>
E-mail torijc@hal.ne.jp



写真: 花御所柿... 鳥取県東部の因幡地方でのみ栽培される甘柿で約200年前、旧郡家町花の野田五郎助が今の奈良県から枝を持ち返り接ぎ木したのが始まりと伝えられています。地名から花御所柿と命名されました。花御所柿は、日本一の甘柿として全国的に高く評価され進物用として広く親しまれています。

暑い暑いと言っていた八月も過ぎ、朝晩がめっきり涼しくなりました。日中も過ごしやすいくらい気温と天候で気持ちよくJC活動と仕事とさせていたただいております。

昨年のこの時期は理事長予定者として、地域に就いてJCにと喫緊の職務は何かがあるのか、将来あるべき因幡の姿はどのような社会なのかと思いを凝らしておりました。そんな夢や希望を同じ様に考えこの時期にスタートした方に安倍総理がいらつしやいました。安倍。安倍ではありませんが、当時親近感を覚えながらその施策、政治運営に注目をしていました。そんな安倍総理が行った施策の中でJCにも関連のある所に対し、今月は少しお話ししたいと思います。

一つ目に教育基本法改正です。2002年より行われてきたゆとり教育の実践に対してある意味否定的なものとして、また教職員のあり方についてもメスを入れた形の改革的改正でした。心の豊かさが青少年の育成には必要としてきたJC運動にとつてはこの度の改正は教育レベルの向上を図るとしても、改正前の受験社会の助長や競争原理主義といった観念を植え付けるのではないかと一抹の不安があります。ただ、愛国心といった国民誰もが持つべき概念に至っては個人的にはおおいに賛成であります。

そして憲法改正の為の国民投票法成立があります。憲法改正は日本青年会議所でも近年取り組んでおり、昨年はJC版憲法草案なるものが策定されました。これは日本青年会議所の委員会が考えた一つの草案であり、今現在国民の中で議論されている改憲護憲といったところとは位置付けが少し違うと解釈しております。法施行までまだ3年ありますが、鳥取青年会議所が本年進めてきた参政意識の観点からは、これから益々当事者意識といったものが重要になってくる問題です。市民・国民参加型行政を考える時、当たり前ですが、我々会員も認識し自覚してゆく必要があるでしょう。

九月 理事長挨拶
理事長 安倍 幸伸

2007年度 日本JCスローガン 「日本の力」発信! 理想国家日本の創造に向けて!

2007年度 鳥取JCスローガン

目標を見定め我「実行」せん!

まちづくりの仲間紹介

毎月、鳥取県東部で活躍されているまちづくり団体をご紹介します

< NPO法人 鳥取スポーツクラブ >

鳥取スポーツクラブは、総合型地域スポーツクラブとして正しい指導知識を持つ指導者を配置・育成し、地域住民の方々へ健康維持・健康管理及び競技の普及・競技力の向上に関する事業を行い、学校体育が社会体育へと移行するなか、地域住民が安心して社会体育を行うための受け皿となり、スポーツ振興に寄与するとともに、生涯スポーツの実現を支援することを目的としています。

【お問合せ先】 鳥取県鳥取市今町1丁目268-1
TEL 0857-22-9705 FAX 0857-22-9705
<http://www.npo-tsc.net/>

まちづくりイベント情報

秋の砂丘一斉清掃

開催日時:9月30日(日)9:15~11:00
砂丘市営駐車場に集合
※雨天の場合は、10月14日に順延
※実施の有無は、当日6:30に市ホームページに掲載
<http://www.city.tottori.tottori.jp/>

【お問い合わせ先】 鳥取市砂丘一斉清掃実行委員会
(市役所本庁舎協働推進内)
TEL(0857)20-3182

鳥取砂丘たこあげフェスティバル

開催日:10月8日(月・祝) 10時00分~14時00分
場所:鳥取砂丘 リフト降り場近辺
料金:無料
内容:鳥取砂丘は日本一広大な砂丘地で、電線一つないその空間から、全国有数のたこあげ好適地として知られています。見てるだけでも十分に楽しめるイベントです。

- ◆演風 日本各地の風の会会員の色とりどりの自慢のたこが鳥取砂丘の空に舞います!
- ◆ボランティアによる大凧作り
- ◆たこづくり教室 (有料:500円 当日お支払い) 場所:ラクダ屋2階 時間:10:30~12:30 スタッフの指導のもと、凧を作ります 完成後は広々とした砂丘内であげてみましょう!
- ◆フリーマーケットも開催されます

【お問い合わせ先】 鳥取市観光協会 TEL(0857)26-0756
<http://www.torican.jp/>

事業のお知らせ

合宿 DE 合同演奏会 ~奏でよう! おもいやりのハーモニー~

開催日時:2007年10月11日(木)~14日(日)
発表会場:賀露小学校体育館
練習会場:賀露小学校
宿泊会場:賀露地区公民館
参加対象者:鳥取敬愛高等学校吹奏楽部(11名)
賀露小学校合奏部(19名)
協力:鳥取敬愛高等学校吹奏楽部顧問
賀露小学校合奏部顧問・賀露地区ボランティア

目的:
高校生と小学生という年齢の異なる子どもたちが吹奏楽発表会という共通の目標に向かい一緒に練習を行い、また共に寝食生活をする中で、より密なコミュニケーションが取れるのではと考えております。高校生は小学生から必要とされる充実感・責任感を感じ、小学生は高校生のお兄さんお姉さんと一緒にいる安心感・憧れ・褒められる喜びを感じられるのではないのでしょうか。人と触れ合う体験を通して他人から「褒められた」「喜ばれた」「必要とされている」と感じられる体験をし、「人の役に立っていると思う感情」が高まり、おもいやりの心を醸成していくものと考えています。

合同演奏会(発表会):
10月14日(日)10:30~12:00 賀露小学校体育館にて開催します。是非ご来場下さい。※入場無料

【お問合せ先】
社団法人 鳥取青年会議所
TEL:(0857)24-1638 e-mail: torijc@hal.ne.jp

◆今月の表題◆

面壁九年...めんぺきくねん
ひとつの目的、仕事に長い年月をかけ、心を傾けること。
面壁は、壁に面すで、壁に向かって座禅する意味。
参照...「四字熟語」これだけ辞典

青少年育成について考える

青少年育成委員会 委員長 野田祐二

現代社会において子どもたちを取り巻く環境は、核家族や一人っ子の流れの中で、またテレビゲームやインターネットなどを相手にした直接的に接触しないひとり遊びが増加しており、「コミュニケーション不足の結果、他者に気を配れない・気を使えない世代が少しずつ台頭してきているように感じます。昔は兄弟も多く、地域にもたくさんの子どもたちがいました。多くの人間に囲まれた環境の中で育つことは子どもたちの健やかな発達にとってなくてはならない体験学習の場だったのではないでしょうか。子ども頃からの多くの人間と顔を突き合わせた関わりを持つことの大切さを感じます。

さまざまな年代の子どもが関わりを持つことでお互いに理解を深め、年下の子どもに対する心配りや責任感、年上の子どもに対する尊敬や憧れ、人との関わり方に関するさまざまな事を自然に身に付けてきたのではないのでしょうか。小さな子どもたちは年上の子どもたちの役割を見て育ち、大きくなったら年下の子どもたちに伝えていきます。そういったことが自然に出来る力を身につける必要があるのではないかと考えています。

「おもいやりの心」が希薄になつてきている時代の中で、子どもたちが異年齢交流による人間関係を築く力(人間力)、生きる力、コミュニケーション能力、おもいやりの心を醸成する手法は数多くあります。が、今年度、私たち(社)鳥取青年会議所は、二つの手法に注目しました。一つ目は、社会性や協働性、思いやりの心や豊かな人間性の育成(向けての手法として「異年齢交流」。二つ目は、お互いの立場や役割を理解し、協力し話し合い、時には我慢し、生きる力を醸成する手法として「共同生活の機会を与える」「通学合宿」です。



NPO遠足計画 代表 石原達也氏

遠足計画「子どもから地域を考える非営利組織」

場づくり事業「とっとり冒険きち」

冒険遊び場の開催とその支援

広報、PR事業「NPO LIFE」

自然にたのしいNPO生活を始めるための情報誌(鳥取県企画部協働推進室との協働事業)

安陪 今日はいよいよお願いします。主な活動として地域の子どもたちに遊び場を提供する「とっとり冒険きち」を主催されています。まずそこに注目させていただいたのですが、子どもたちの対象年齢は限定されていますか。

石原 基本的には小学生です。プレイパークという全国的な運動がありまして、実は20年前に九州のJCが始めたそうです。もとはヨーロッパから取り入れた考え方で、その後東京都の世田谷で動きが広まってきました。その活動を知って鳥取でも出来ないかと考えて始めました。

安陪 非常に面白い取り組みですね。大人も参加でき、子どもと一緒に遊べる内容だと思います。JCも色々な活動をしていて、理念などが難しく捉えられることがあります。石原さんがされている取り組みはシンプルで夢が広がりますね。是非長く続けて行つて下さい。メンバーは若い方が中心の活動ですよね。

石原 今年で4年目ですが、学生もいますが公務員や教師をされている方が中心です。仕事をしながらです。なかなか難しい点もありますが、今は公民館を拠点にしています。販売のベースに乗れるようにしたいですね。考えています。例えば飲食店をベースにして普段は店員をして、休日は子どもたちと遊ぶみたいなことが出来ないかと考えているところです。

異年齢交流(手法1)

異年齢交流事業は、東京都教育委員会が「夢の架け橋事業」として、現在積極的に推進、奨励しています。

その内容を踏まえて、「異年齢交流事業」の実態を紹介いたします。

- ①実施主体 東京都内小学校・中学校・高等学校
- ②ねらい (1)子どもたちに異年齢交流の機会を増やすとともに、社会性や協働性、おもいやりの心や豊かな人間性の育成を図ること
- (2)「開かれた学校づくり」を進めることで都民からの公立学校全体に対する理解を深め、信頼を高めること
- ③交流内容 高校教員による訪問授業、小中学生の高校での体験授業、生徒会を通じた交流、部活動を通じた交流、行事を通じた交流、ボランティアを通じた交流、児童への安全確保への支援、研修会の実施
- ④実施日数 一日、あるいは数日間
- 宿泊をとらなした事業はない
- ⑤具体的な事例(吹奏楽関係) 訪問演奏会、合同音楽会、合同練習、技術指導

安陪 事業体にしていくと負担感が無く出来るでしょうね。ボランティア活動を先進的にされていますね。

石原 そうですね、ボランティアについて考える時、アメリカと比べてみるとまずコミュニティの形成過程が違うということがあります。日本は農業を中心に村から町内会へと発展してきました。アメリカは開拓者がまちを切り開いていきましたから、自分達で自分達のまちを創るという意識があります。日本では活動に当って問題点が出てきたり、困難な面があるのは事実です。

安陪 NPOやボランティアの情報誌である「NPO LIFE」では、新しい社会の創造を紙面で訴えておられますね。

石原 多くの方々にボランティアの場を創ることと、メッセージの発信という考えを伝えていくことを心掛けています。行政がしていることを知らない人も多いと感じていて、それ自分たちで発信し伝える事はしていきたいと思っています。

安陪 私たちも活動やメッセージを発信していますが、伝わりきらないというジレンマがありますね。私たちと近い活動をされていると思います。

石原 色々な人や色々な組織が活動をされていますが、バラバラにやっていて勿体ないと思っています。

安陪 公民館がコミュニティの中心として、またネットワークの繋ぎの場としての役割がより大きくなつてくると思います。鳥取市も取り組みを始めていますが、より繋がりがコミュニティを大切にしていけないといけませんね。

石原 地域のことを考えた時に、誰が何をやるのか、役割分担はどうするのか、ということも考えなければなりません。何でもかんでもやるのではなく、それぞれがどう考えどの役割で何をやるのか、それを知っていた方がいいですね。

通学合宿(手法2)

通学合宿は昭和58年に福岡県の庄内町ではじまりました。

国立教育政策研究所社会教育実践研究センターの調査結果を踏まえて通学合宿の実態を概略で紹介いたします。

- ①実施主体 教育委員会事務局、実行委員会、学校、PTA、地域の団体、社会教育施設等
- ②ねらい 「働くことや協力することの大切さを理解する」「地域で子どもを育てる気運を醸成する」等
- ③宿泊場所 公民館などの社会教育施設、青少年教育施設等
- ④実施日数 6日以内が6割超
- ⑤対象学年 小学5年生、6年生、4年生の順に多い。小学生と高校生という異年齢交流はない。
- ⑥実施プログラム 自炊、風呂、部屋の掃除、自由時間、入校式・終了式、自習、レクリエーション、洗濯などの生活に関する活動プログラムの実施比率が高い
- ⑦参加費 二千元～四千元未満が最も多い

安陪 私たちは地域の中心となるべきだと思つて活動しています。100人のメンバーの手法とネットワークがありますので、また一緒に何か出来ることもあると思います。

石原 仙台でNPOでは有名な方がいらつしゃるのですが、本業は宝石商をされていて、企業という位置づけで取り組みをされています。そこで様々な団体と協働で仙台ケアーズというキャンペーンをされています。鳥取も様々な人がまちづくりに取り組めるように都市の戦略が必要ですね。

安陪 目先の生活に密着することも必要ですが…。

石原 日常の行政の業務でしなければならぬことはもちろんですが、もっと外に発信していかないといけないこともあります。私は中学のころから環境に関係した仕事をしたいと思つていました。「鳥取県は日本の原風景」というPRをしましょう」と県に提案したこともあります。今、岡山と鳥取を行き来しています。岡山はNPOの支援体制がものすごく整っているんですよ。全県的な取り組みがなされています。

安陪 最後に青少年の育成についてお考えをお聞かせいただけますか。



《石原達也氏》 《安陪 理事長》

⑧成果

- (1)子どもたち 「新しい友達ができたり、交流が深まった」「働くことや協力することの大切さを理解できるようになった」等
- (2)地域 「子どもと地域の人たちのあいさつや会話が增えた」「学校と地域社会の連携が深まった」等

「異年齢交流」「通学合宿」共にすばらしい手法でありますが、検証していく中で、「異年齢交流」では時間が限られどうして一時的な交流になつてしまふこと、また、「通学合宿」では参加する子どもたちが狭義の地域・年齢に限られてしまふことなど、一長一短の点も浮かび上がつてきました。

私たち(社)鳥取青年会議所は上記のような先進事例を踏まえ、子どもたちの人間力向上を図るために10月11日から14日にかけて、青少年育成事業「合宿DE 合同演奏会」を奏でよう！おもいやりの「ハーモニー」を開催します。

この事業では、高校生と小学生が音楽という同じ志を持つもの同士「演奏会」というひとつの目的を目指して3泊4日の共同生活を行い、異年齢同士のコミュニケーションを通して「おもいやりの心」の醸成を目的とするプログラムとなつていきます。

この事業を通して得られた感動を多くの方に知つていただき、因幡地域の「おもいやりの心 育成プログラム」として事業の有効性を広め、今後も継続して取り組んでいくと同時に教育委員会・各学校へ提案してまいります。

石原 元々は森林教室みたいなことをやっていました。子どもたちを集めて森林体験してもらつたりということ。その中で子どもたちが夏休みは外で遊んでいるけど、普段は家でばかり遊んでいるということでした。もつと子どもたちの社会をつくる場が必要だと思ひ、プレイパークの考えを知つて、やつてみようと思つたのです。始めたころに来ていた子どもが今は高校生になつて、手伝つてくれるようになってきました。このサイクルがもつと出来て、続いていくと良いなと思つています。子どもたちには色々な人と触れ合つて、それぞれの役割を知つてもらふ、そういった場所を創つて行きたいと思つています。

安陪 外からのプレッシャーに弱い子どもが多いように感じています。もつと色々なことを経験することが成長に繋がりますよな。

石原 子ども頃の教年間はとても長いものだと思います。遊びを通して色々な経験をしたいってほしいですね。

安陪 今の若者や子どもは辛抱の経験が足りないように感じます。社会に出た時どうなるのかと思います。昔で言えばガキ大将はみんなとどうコミュニケーションをとるか考えていましたよね。

石原 そして年下の者はどう仲良くなるのか考えます。年齢層が違ふと色々な経験が出てくるのですが、それが現代は日常的に無いのです。昔は、年上の者から下の者に経験が継承されていくものだったのです。そういったことも含めて、子どもたちの可能性を開いてあげたいと思います。

安陪 これからも共に子どもたちの成長を見届けていきましょう。今日はありがとうございました。